

第38号

沖縄キリスト教短期大学報

沖縄キリスト教短期大学

沖縄県西原町字翁長777

電話 (098) 946-1240

FAX (098) 946-1241

発行 学長 原 喜美

編集 事務局企画課



主な内容

△「生きることは

学ぶこと、愛すること」 原 喜美

△学ぶ喜び 神田 幸子

△教育の国際化と

国際交流室の役割 ジェームスA.ロス

△「援助のあり方」とは 西 和美

△国際交流協定書調印について 原 喜美

△十月入学制度について 前里 光盛

△キリ短に入学して 高橋茉利子

△第1回ハイワイ研修に参加して 山城真紀子

△バングラデシュを伝えようとするとき 大城 華

△同窓会ニュース

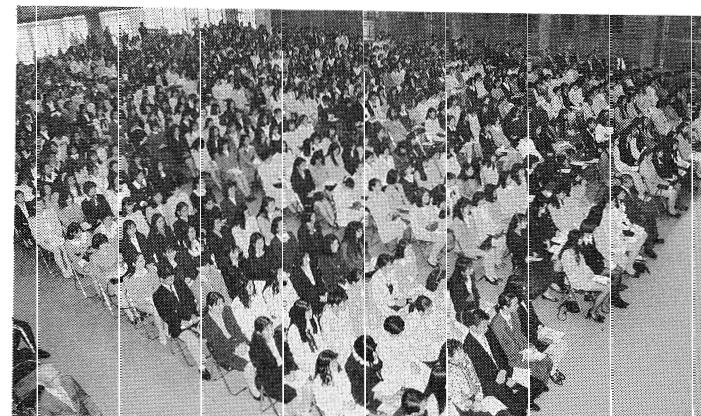
1994年度 第38回 入学式(春・秋)

～外国人留学生・帰国生を対象に新たに10月入学制度を導入～

◎4月入学式(1994年4月2日)

1994年4月入学者数

学科	男	女	計
英語科	8	291	299
保育科	2	128	130
合計	10	419	429



外国人留学生・帰国生(内数)

学科	男	女	計
英語科	2	3	5
保育科		1	1
合計	2	4	6

*中国2名 韓国1名 台湾2名
ペルー1名

◎10月入学式(1994年10月1日)

1994年10月入学者数

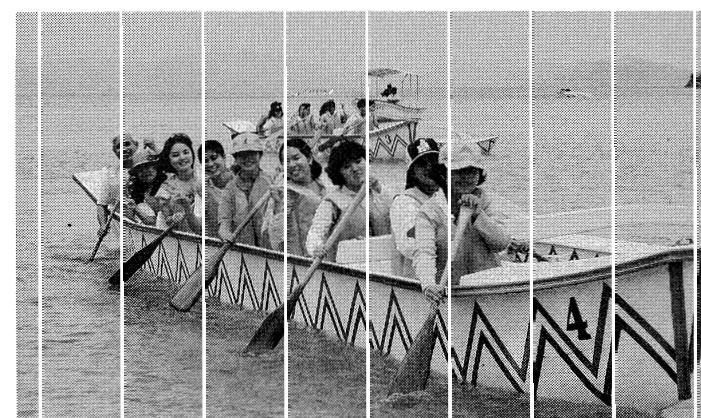
学科	男	女	計
英語科	3	4	7
保育科	-	-	-
合計	3	4	7



県内大学で最初の10月入学学生となった皆さん
前列左から仲尾マリナ、エリカ・メイ・タンブソン、
原学長、比嘉三和、黃慧珍、後列左から黃君豪、林俊顕、
潘健華（敬称略）

受入別(内数)

受入別	国籍・人数
外国人及び 外国人留学生	台湾4名 アメリカ1名
帰国生	ペルー1名 日本1名



新入生オリエンテーションキャンプ

四月入学式 式辞

「生きることは 学ぶこと、愛すること」

学長 原 喜 美

ご来賓の皆様、ご両親、ご家族の皆様、常に本学を支えて下さる同窓会の皆様、そして教職員の皆様、そしてキラキラと星のように輝く新入生の皆様！今日のこの佳き日、入学式と共に御祝いできる幸いを心から感謝いたします。

唯今入学認定にありましたように、本年は英語科、保育科合わせて四三〇名を本短大第三十八期生として、そして二名の方を転入生として迎えることが出来ました。

新入生の皆さんは本県のみならず鹿児島の各県から、また五名の留学生の方々は中国、台湾、韓国から來られました。その上、生涯学習時代に適わしく十名の社会人も加わり、又十名の男子学生もキャンパスに光彩を添えていたのであります。この多様性のもたらす素晴らしい効果に大きな期待を寄せています。

この為に本学では、留学生を迎えて、このキャンパスの国際化に

て居ります。

さて、皆さんには、今日から一度と繰り返すことのできない人生のうちの大切な二年間をこのキャンパスで過ごされることになりますが、「学ぶ」ということは一体どういうことでしようか。それは單に暗誦によって英語を覚えるだけのことでもなく、単に偏差値を上げることでもありません。また短大で必要な単位をとるだけのことでもありません。生きることは学ぶことであり、さらに愛することである」と言われているよう

に他者の痛みを知り、他者と苦しみを共にするということではないでしょうか。相手を理解する為には「心を開く」ことから始められなければなりません。親と子、夫婦、兄弟姉妹、友人同志、教師と学生の間のコミュニケーションの重要性が今日程叫ばれているはありません。というのはこれなくして相互信頼関係は成立しないからです。この相互信頼関係は異民族、異文化間では一層大切になります。

この高度に科学技術の発達した社会において、皆さんのもつ限りない可能性、能力をどうしたら人類の福祉とつなげることが出来るかについて、「人生について」「人間とは」という問題と取り組み地球規模で問題を考えて下さい。

二十一世紀も数年後に迫り、日本の戦後はこれから始まるという感を深く致します。どうぞ皆さんボランティア精神を發揮して、自由と思いやりの心に溢れたキャンパスライフを送られますように祈ります。

これをもって新入生に対する式辞といたします。ご静聴を感謝いたしました。

学長 原 喜 美

この高度に科学技術の発達した社会において、皆さんのもつ限りない可能性、能力をどうしたら人類の福祉とつなげることが出来るかについて、「人生について」「人間とは」という問題と取り組み地球規模で問題を考えて下さい。

二十一世紀も数年後に迫り、日本の戦後はこれから始まるという感を深く致します。どうぞ皆さんボランティア精神を發揮して、自由と思いやりの心に溢れたキャンパスライフを送られますように祈ります。

このことは長い間の念願であり、ハワイ・コミュニティ・カレッジズ総長 津野田ジョイ博士の熱心なご配慮により、ハワイ・コミュニティ・カレッジズ總長 津野田ジョイ博士の熱心なご配慮により、実現したものである。両者は今後益々相互理解を深め世界平和への貢献を心から願うものである。

十月入学制度について

教務部長 前里 光盛

社会の様々な分野における国際化の急速な進展に伴い、日本の大學や短大に学ぶ外国人留学生や帰国生が著しく増加しています。

このような状況の中で、本短大は、外国人留学生や帰国生を対象に従来実施してきた四月の推薦入学に加えて、十月入学の機会を提供することになりました。これは、入学や卒業の時期が日本とは違う諸外国の学生を積極的に受け入れ、勉学のチャンスを与える国際化推進プログラムの一環であります。

県内大学では初めて行われた今年の十月入学試験に、台湾の留学生四人、米国籍一人、日本人帰国情生二人の計七人が応募し、厳正な審査の結果、全員が合格となりました。試験は書類審査、面接（日本語または英語）、小論文（日本語または英語）でありました。

本短大のキャンパスで共に学び合うことによって、「多様で異質な言語・文化・歴史を生きる学生若い学生達の母親の年齢の人もいて、彼女たちの並々ならぬ努力と真摯な学習態度が一般学生に良い刺激を与え学内の活性化に寄与している。



社会人学生（キリ短祭でバザー開催）

社会人学生

生涯学習の機会を求める人々のニーズに応えて社会人推薦制度を設け、一般社会人の入学を歓迎している。

現在、三十九名の社会人学生が学んでいる。学業のみならず、サークル活動、ボランティア活動にも励み充実した学生生活を送っている。社会人学生の中には若い学生達の母親の年齢の人もいて、彼女たちの並々ならぬ努力と真摯な学習態度が一般学生に良い刺激を与え学内の活性化に寄与している。

学ぶ喜び

保育科二年 神田 幸子

英語科一年 高橋 茉利子

母親としての育児・教育の経験から、「子供の育ち」について興味を持つようになりました。〈子供〉についてもっと深く学びたいと思い、意を決して本短大の保育科に入学しました。

昨年、初めてスニーカーを履き、すっかり学生気分でした。各分野の色々な角度から網羅した講義内容に驚嘆しつつも直接学ぶ喜びを体中で受けとめ、先生の一語一句聞き逃さまいと必死にノートを取りました。授業が終了すると頭も体も疲れきっているが心は満たされた気分で帰途についたものです。学びを重ねる度に新しい発見をする喜び、又、娘と同世代の学生達が気軽に話しかけてくれたり、同じ社会人仲間や留学生との交流も楽しみのひとつです。

卒業が迫ってきましたが、今までの学びを今後さらに深め、研鑽し、豊かな人生設計の指標にしたいと思います。

キリ短に入學して

教員候補者最終試験

快挙!! 十五名合格

話題

一九九五年度教員候補者選考試験の最終結果が十月二十日判明、本学から十五名が合格しました。合格率二十数パーセントという難関を突破しての快挙である。合格者十五名の内訳は、現在教職コースに在籍する中から九名、卒業生の中から六名となっています。この十五名という数字は、一九九五年度の中学校英語教員の募集数が三十名であるということを考慮すると、大きな意味を持つ。応募者三十名の半数をキリ短関係者が占めることになるからである。

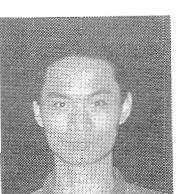
殺人とも思われる過密なカリキュラムをクリアして見事に、最後に、キリ短のすばらしい教職員の方々と学生の皆さんから多くの物を吸収して自分を磨いていくたいと思います。

たちが、お互いに友情を深め、切磋琢磨し、新しい世界・文化を生み出し、平和な国際社会の創造と発展に大きく寄与する有能な人材となること」が期待されています。

1994年度10月入学生（7名）	
外国人留学生・国籍	帰国生・国籍
潘偉華 Han Ika (台湾)	仲尾マリサ(ペルー)
黃慧珍 Kou Keichin (〃)	比嘉 三和(日 本)
黃君豪 Kou Kungou (〃)	
林俊頤 Rin Shungan (〃)	
エリカ・メイ・タンプソン(米国)	



キン金 ケイリ 壱利
(韓国) 英語科1年



ヨウ 楊 (中国) 英語科1年

キリ短のみなさんを見ていると、自分の夢に向かって走るのが見えます。

先生方は豊富な教学経験を持ち、学生に個性を育むことを正しく指導します。学生は自由に発想し、大学は国際的な雰囲気に満ちています。

にしようではありませんか。

教育の国際化と

国際交流室の役割

室国際交流室 ジエームス A・ロス

国際化が進み世界が“地球村”

本学は、学生参加による国際教場として重要な役割を果たすとともに、世界で何が起きているかをいろいろな角度から学生たちに理解させる高等教養の場もますます必要になっていきます。

育プログラムを積極的に進めていきます。これまでにも学生は、本学と提携のある米国のいくつかの大학や、提携校ではない米国以外の国へも留学しており、本学は、これららの国際的視野に立つ学生達をサポートしています。



MSU研修(一九九四年九月)



ハワイ研修



語学研修、異文化理解の三つを目的にしていますが、いずれも私達にとって充分な内容で学習することができます。短い1か月の研修ではありましたが、幾つかの異なる民族が豊かに共存している社会で、実際に自分自身で見聞きし、膚で感じる体験の成果は意義の大きいものがあると考えます。異文化社会、その中で展開される教育（保育）のあり方をも考える良い契機になつたのではないか。また、沖縄を見

第一回 ハワイ研修に

保育科引率者 山城 真紀子

ハワイでは、協力し合い充実した研修にしようとする姿勢が参加者全員に漲り、自覚のある研修生たる心が窺えました。また、それは私達の為に配慮されたプログラムで進めて下さり、コーディネイトして下さったハワイ・コミニティ・カレッジズの多くの関係者の御厚意によるものだと感謝しております。

イ) の幼児教育についての学習
語学研修、異文化理解の三つを目
的にしていますが、いずれも私達

◆第1回 ハワイ研修

期 間 1994年2月13日
～3月13日

参 加 者 英語科 13名
保育科 8名

引 率 者 英語科 ジェームス A. ロス
保育科 山城真紀子

アシスタント 謝花みどり(学生部)
上地 泉(保育科助手)

國際的観野に立てる保育者

ログラムを導入して下さった原学長への感謝の念とともに、また、本短大の教育方針を理解下さり、多額の費用を労しまず送り出して下さった御両親へも感謝申し上げたいと思います。

このように、周りの多くの人々の暖かい理解、配慮の元に学ぶことの出来る学生達は、きっと、この想いをしっかりと受け止め、それぞれの立場で再びその想いを送り返すことの出来るすばらしい人間に育つてゆくのだ信じます。

このハイ研修を支えて下さった多くの方々へ感謝申し上げます。

では、海外研修に参加する学生へ
本学の授業科目「異文化理解」
国際的視野に立てる早育者を育む
つめる機会にもなりました。

与えられます。ハワイでは構内に寮がないため構外の宿泊施設を利用します。ハワイプログラム参加料は約四十二万円です。

MSUは学生数約四万人の巨大な四年制大学で伝統的な米国大学と言えます。大学の敷地面積は沖縄の一つの自治体と同じくらいの大きさです。MSUプログラムに参加した学生は構内にある寮に滞在する為、学生生活も体験することができます。MSUプログラムへの参加料は約四十七万円です。ハイプログラムは、ホノルルにあるカピオラニ・コミュニティカレッジとカウアイ島にあるカウアイ・コミュニティカレッジで研修しますが、この中で多様な文化を持つハイについて、又、沖縄との関係について探究する機会が

の協定により、九月に三十五名の学生がMSUへ、そして二月にハイへと送られました。これらの一ヶ月間のプログラムに参加した学生には海外研修の単位が与えられます。

教員紹介

Dr. Craig
Jacobson
(英語科助教授)

可能性を引き出す方法を備えていなければなりません。本学では学生が沖縄や日本の社会だけではなく世界に通用する国際的人材となるよう今後とも努力を惜しまないつもりです。

本短大の国際交流室は今年の四月に学生部内に設置されました。海外研修に参加する学生を援助するだけでなく、独自で海外研修プログラムを探すことができる資料室も兼ねています。原学長を委員長とする国際交流委員会のメンバーは、国際的志向を持つ学生達に十分なアドバイスをすることができます。この他に最近増えつつある台湾、韓国、中国そして南アメリカからの本学への留学生や帰国会子女を援助するという重大な役割があります。要するに国際交流室は沖縄から外国へ、外国から沖縄へ留学する学生の為の仲立ちをする場と言えましょう。

も収録されており、報告書の内容を豊かなものにしている。

一年間のプログラム活動を終え
た学生達が、ボランティアグル
ープを結成し他の学生達にも呼びか
け西原町社会福祉協議会と連携を
保ちながら地域での活動を継続し
ている。又、地域からはCSPを
通して大学が身近になった、地域
(施設)に新しい風を吹き込んで
くれた等の声が寄せられ、CSP
の成果があらわれ始めている。

山城あい子さん 下地和志さん



本学の特色ある教育活動として
昨年から実施されたコミュニティ
サービスプログラム(CSP)の一
年間の成果を二・三紹介する。
本学のCSPに沖縄県社会福祉
協議会も注目し、去った三月、同
会から一年間の活動をまとめた
『大学におけるボランティア開発
プログラムに関する報告書』が発
行された。同報告書は、学生達の
前期と後期のレポートを全て収録
しており、一年間の活動を通して
学生達の意識や取り組みの変化や
深まりが理解できると共に、地域
の機関・施設・団体の担当者の声

障害をもつ学生を囲む会および
点訳ボランティア感謝会

障害をもつ学生を囲む会および
点訳ボランティア感謝会

宗教部の年間ティー
マ「共に生きる」を

バングラデシュを
伝えようとするとき

グラデシュに 寺小屋小学校を贈る運動 －2人の学生を派遣－

お見起の④にまし

というものである。運動の期間は二か年、目標額は八十万円。八月には二名の学生を派遣した。

確かに人々の生活は貧しいものでした。政治的な不安定、低い教育水準、地理的・経済的因素による雇用機会の限界、それらがもたらす無気力化、貧困。私たちにお金をせがむ子供達。このような現実を目當当たりにしましたしかし、農村部では水田が一面に広がり、その光景の美しさに驚きました。文明に頼ることのない人々の生活は、私にとって新鮮であり、感動的でした。蛇口からスムーズに出ない水事情も、毎日のように起こる停電も、ここでは大したトラブルではないのです。

バングラデシを離れ、一か月が過ぎた今でも、私は友人や先生方にバングラでの感想を求められると、言葉に詰まります。最初の一言が出てこないのです。「樂しかった。でも優しかった。」「どれも適切で、あって的確でないように思われるのです。

私の滞在はわずか一週間。その短い期間でいろいろな人や出来事に出会い、多くのことを学びました。それらは、映像や活字のよくな媒体からは知ることができない部分であるような気がします。現地で、私自身の中に矛盾を発見したり、援助の難しさに悩んだり、日本人としての私の生き方を考えさせられた貴重な時間でした。

短い滞在ではありましたが、バングラを伝えようとするとき、「豊さ」と「貧しさ」をしみじみと感じるのです。

と高い文盲率など様々な問題を抱えている。その結果、他国からの援助なしでは成り立たないのが現状であり、世界各国からの援助がなされ、今や「援助づけ」の状態である。彼らも外国人を見ると「お金、援助」と連想し援助を待ち望む者もあること。困っている者への援助はとても大切で、必要なことである。しかし、与えるだけではその国の発展はない。その国が発展してゆくには教育の普及がとても重要となる。そこで、ACEFとSEPが協力し合い、

私がバンガラデシュスタディツアーリに参加して特に感じたことは、「援助のあり方」についてである。アジアで最貧困国であるバンガラデシュはパキスタンとの独立戦争や大洪水による被害などにより、また乏しい地下資源、低い国民所得、高い人口増加率、低い就学率

【援助のあり方】とは

に土地を提供してもらい、彼らの活動に関わっているという意識づけを行っている。教育の普及を行う中で彼ら自身が「援助を受けるだけではいけない」という気づきを得ることが重要である。また、援助する側も「援助をしている」という傲りの精神ではなく、「共に生きる、同じ日の高さで接する」ことがとても大切であり、継続することが重要だと痛感した。

神国 吉	【宗教関係】	子守 一〇〇〇〇〇
神谷 智		子守 五〇〇〇〇〇
▲団体▼		
那覇バプテスト教会	100,000	
城間ナザレン教会	100,000	
日本キリスト改革派	100,000	
那覇教会	100,000	
◎高校生英語 弁論大会援助金		
沖縄科学アカデミーセンター	100,000	
◎その他 本短大後援会	300,000	
◎パイプ・オルガン献金		
▲個人▼		
照名 屋城 寛嗣	100,000	
善明	10,000	

▼原喜美本学長、ソロプロチミス
ト日本財団「千嘉代子賞」受賞

今秋十月二十四日、千葉県の東京ベイホテル東急で開催された財団法人ソロプロチミスト日本財団の年次大会において、原喜美本学長に一九九四年度「千嘉代子賞」が贈られた。この財団賞は、国際理解促進や文化交流に功績のあった人に与えられるもので、原学長のこれまでの国際交流・国際協力の功績に対して国際ソロプロチミスト沖縄（又吉博子会長）が推薦し、受賞の運びとなつた。

▼三四期卒業生・仲里和花さん、県人材育成財団より奨学金貸与される。

仲里さんは、現在フィリピン女子大学社会福祉学科三年次在学中。県人材育成財団から二年間の奨学金貸与が決定した。

謹
弔

フェロメナ・キソール氏 元専任講師。五月十五日マニラで逝去、七十四歳。

元沖縄キリスト教団の教育宣教師としてフィリピン・メソディスト教会から派遣され一九六一年から一九七五年まで、本学非常勤、後に専任講師として英語科・保育科で教鞭を執る。

小橋川寛氏 本学名誉教授。

十月一日逝去、九十二歳。

琉球大学教育学部退官後、一九七年本学保育科教授に就任。教務部長の重責を果たされ一九八〇年退職。体育振興、スポーツ界の人才培养に大きく貢献した。また、県体育協会長はじめ多くの要職を歴任、一九七二年に勲三等瑞宝章を受章。

◎施設々備拡充資金	◎学生会活動援助金	◎その他	原伊敷和喜美枝
本短大留学生	本短大司憲会	本短大後援会	本短大同窓会
公開講座イタリア語	六五、六六	グループ10,000	受講生10,000
田江原袋城元原原満上袋城原喜川座嶺味田	那野間江野	100,000	100,000
「父母」	長座上	100,000	100,000
真桑上島大豊上上川井島玉与上幸山宜長座上	幸山宜長座上	100,000	100,000
義良勝武米実仁政好光勝幸昌宗朝文文美枝	太	100,000	100,000
功榮三之正助一男美伸章男智雄郎昭美子子子		100,000	100,000

指定寄付（一九九四年三月～九月）

合	團	個
計	體	人
六	一	四
一	三	八
七	一	五
〇	七	三
一	一	九
九	九	〇
五	五	〇

1995年度 学生募集要項

1. 募集人員〔昼間課程〕 男女

英語科 250名（推薦試験 90名 一般試験 160名）

保育科 100名（推薦試験 40名 一般試験 60名）

2. 入学試験の種類

(1) 推薦入学試験 (2) 一般入学試験

3. 入学検定料 3万円

4. 入試日程

〔推薦入学試験〕

種類 日程	特奨生推薦入学試験	高校長推薦入学試験
	特別推薦入学試験 外国人留学生等推薦入学試験	
入学試験	1994年12月1日(木)	12月2日(金)
合格発表		12月10日(土) 13:00

※以下、省略

〔一般入学試験〕

願書受付	1995年1月11日(木)～21日(土)
入学試験	2月9日(木)～10日(金)
合格発表	2月18日(土) 14:00
学費納入	2月20日(月)～28日(火)
入学手続書類提出	3月6日(月)～8日(水)

〔外国人留学生・帰化生等推薦入学試験 1995年10月入学〕

願書受付	1995年7月20日(木)～27日(木)
入学試験	8月1日(火)
合格発表	8月7日(月)
学費納入	2月21日(月)～25日(金)
入学手続書類提出	8月21日(月)～25日(金)

5. 受付場所 〒903-01 沖縄県中頭郡西原町字翁長777

沖縄キリスト教短期大学 入試事務室 ☎ (098) 946-1235

◆一般入試試験科目

国語（古文・漢文を除く）
英語（英語科は自由英作文・リスニングを含む）

小論文
面接
調査書（評定平均値点数化）

◆推薦入試選考方法

※入試事務室へお問い合わせください。

第二回同時通訳者養成基礎講座と特別講演会についてご案内致します。尚、詳細に関しては教務部にお問い合わせ下さい。

一、講師

斎藤美津子先生

国際基督教大学名誉教授
明星大学教授

二、期間

一九九五年二月十三日（火）
～二十日（月）（含土日）

三、受講対象者

本学学生、一般社会人、

四、

受講生の資格

日本語に堪能であり英検準一級程度（同等の英語力）

四、

特別講演会

（一般公開 入場無料）
斎藤美津子先生

三、

講師

斎藤美津子先生
（予定）

四、

日程

一九九五年二月十三日（火）午前十時

当短大チャペル

同時通訳者養成基礎講座と
特別講演会の案内